

2025年度

S 3

小論文

2月25日(火)

人文社会科学部 (言語文化学科)

10 : 30 ~ 11 : 30

【前期日程】

注意事項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(1枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、1ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚(表裏))
を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて
監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。
下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・書き出しは、一マスあける。
- ・改行したら、最初の一マスをあける。
- ・句読点及び括弧等は、それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」等はそれぞれ一マスで使う。
- ・英数字は一マスに2文字入れてよい。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。(配点100%)

人と庭を訪れたとき、しばしば私はその庭の「解説」を求められる。そういうとき、もちろん必要に応じて、その庭の成立やコンセプト、見どころについての話をするが、正直いつもそのことに躊躇ためらいのようなものを感じている。もちろん、それらは庭の体験の有用な手がかりにはなるだろうが、庭についてそう簡単に「解説」することなどできないし、庭の本質はそんなところにはないと私は考えている。というのも、一つの庭を知ること、把握することはあまりに困難であり、原理的に言って不可能だからである。

日本庭園は、石や水、植物といったさまざまな要素によって構成されている。それらは、その土地の特異性を踏まえて構成されている。そして、その骨格である石組も、加工されていない自然石であり、植物なども一つ一つの個体である。庭がつくられる場、それを構成する要素に二つとして同じものはない。

さらに、庭は時間とともに動き、変化し続ける。木々や草花は風に揺れ、水は流れ続ける。一日のなかでも、天候によって見え方は変わり、また季節による趣きの移ろいは、日本庭園の重要なポイントである。そして、そうした四季のひとめぐりが蓄積されてゆくことで、木々が成長したり枯れたり、大きな変化が生じることもある。そこに鳥や虫が訪れ、飛び交い、鳴き声を添える。庭園という「舞台」においては、常に一回きりの、再現し得ない「上演」が繰り返られているのである。

その上、園内を回遊する池泉回遊式庭園などであれば、庭を体験する位置は無限にあり、どこにいても体験は全く異なる。

このように、庭を見ること、体験すること、知ることは、きわめて困難である。考えてみればそれは当たり前のことではある。要するに、庭での体験とは、地球環境の体験の縮図である。それはまた、人にとって、鏡のような存在にもなりうる。人が時とともに年老いてゆくように、庭もまた時とともに変化してゆく。それゆえ、時に庭は、人の人生と重ね合わされる。

原瑠璃彦著『日本庭園をめぐる デジタル・アーカイヴの可能性』(ハヤカワ新書)より

問 傍線部の「時に庭は、人の人生と重ね合わされる」という理由を、それ以前の文章を参照しながら、より具体的に補足説明しなさい。(600字以内)